

# 20XX/4/1 何とか無事に卒業する方法に関する研究

機械工学課程 ロボティクス研究室  
00123456 工織 ろば太郎

## 1. 緒論

本研究は、急務とされている卒業のために有効な方法の1つとして、前刷りのスタイルを説明する。

## 2. スタイル

基本的にそのまま使えるはずです。本文が多すぎて規定のページ数にどうしても収まらない人は、このファイルの13行目、

```
%\renewcommand{\baselinestretch}{0.75}
```

の文頭の“%”を削除して下さい。

## 3. 図の入れ方

ソースを参照して下さい。

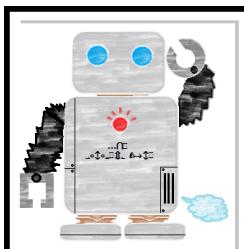


Fig.1: Figure test

## 4. 表の入れ方

ソースを参照して下さい。

Table 1: Table test

あ行	あ	い	う	え	お
か行	か	き	く	け	こ

## 5. ラベル(label) のすすめ

ソースを見れば分かりますが、図表や式にラベルを貼る事をお薦めします。これは、Fig.1と使うことで、図などの番号を自動的につけてくれます。急遽、図の変更があったときなどに便利ですので、常につけておきましょう。

ただし、新しくラベルを貼って最初のtex処理では、処理が2回行われます。

## 6. 箇条書きの入れ方

行間が空きすぎるので、下のおまじないを使います。

```
\itemsep=-1ex
```

出力結果はこんな感じ。

使用前

- ・ 学部 (B) はビギナー.
- ・ 修士 (M) は召使い.
- ・ 博士 (D) は奴隸.

使用後

- ・ 学部 (B) はビギナー.
- ・ 修士 (M) は召使い.
- ・ 博士 (D) は奴隸.

## 7. 体裁の微調整

\vspace{長さ} や \hspace{長さ} を使うと縦方向、横方向の間隔の微調整ができます。次章との間は\vspace{5mm}で5mm分広くしてあります。

## 8. 結論

頑張るしかない。

## 参考文献

- [1] 小山猛, 山藤和男, 田中孝之, “介護用装着型ヒューマン・アシスト装置に関する研究(第1報, コンセプト, システム設計と実機の開発)”, 日本機械学会論文集C編, Vol.66, No.651, 155-160 (2000).
- [2] T. Koyama, M. Q. Feng and T. Tanaka, “Development and Motion Control of a Wearable Human Assisting Robot for Nursing Use”, Proceedings of the International Conference on Machine Automation, 555-560 (2000).
- [3] “LaTeX コマンドシート一覧”, <http://www002.upp.sonet.ne.jp/latex/index.html>, 2016年3月24日閲覧。